

20代、30代を中心とした「勉強本や自己投資本の購入、セミナーへの参加など、自己投資が盛んになっている」という。

一説によると自己投資市場は年率20%成長の世界。経済不況の影響もあり、その伸び率に拍車がかかっているといふ。

何が若手・中堅ビジネスパーソンを自分への投資に駆り立てるのか。自己投資ブームの実態を探った。

文／長田美穂

# 自己投資が心を支える時代

①(左)野崎人材労務管理事務所の野崎大輔。道幸の加速成功実践塾の受講から業務上の勉強まで、さまざまな自己投資に「この半年で100万円は使った」と話す。「近い将来、自分もセミナー講師や本の著者になりたい」と考へている(左)野崎が愛読する書籍の一部



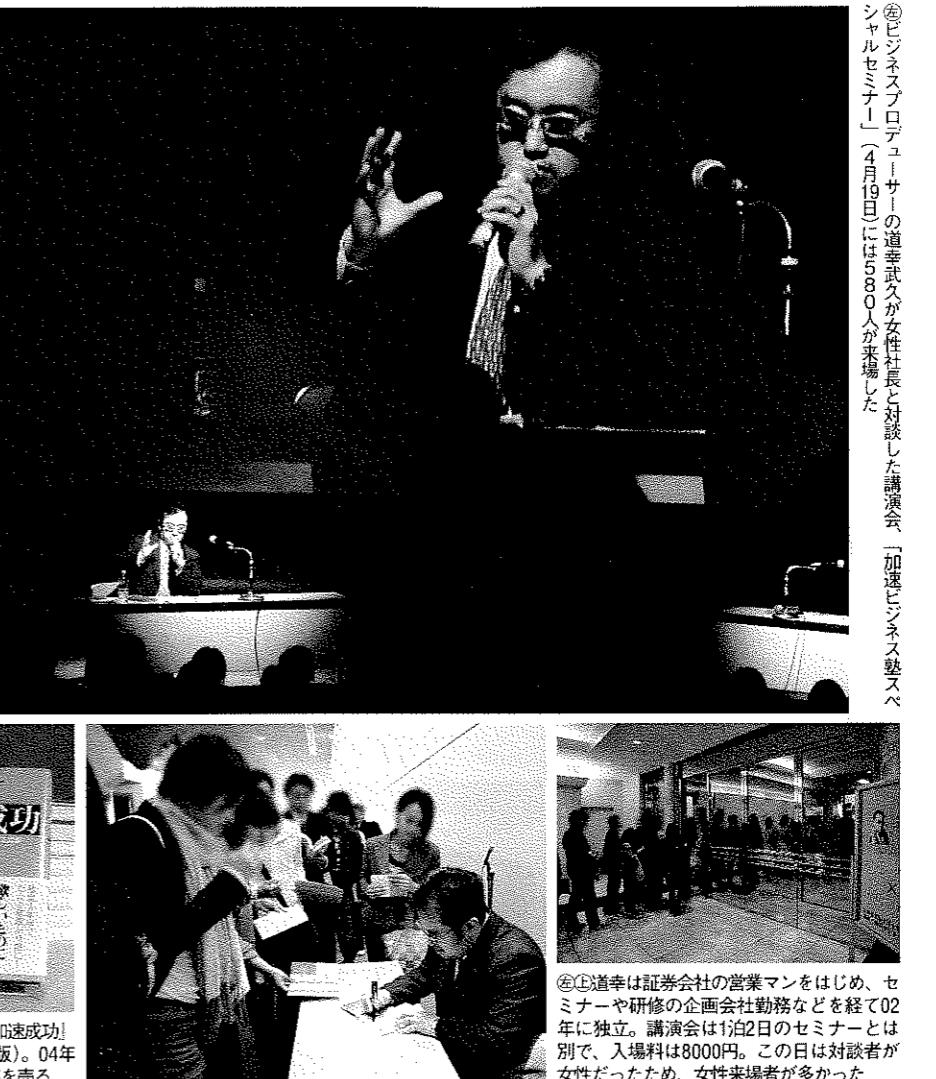
④(左)ジェームス・スキナーのセミナー受講者の佐藤夫妻(仮名)。ロバート・キヨサキの「金持ち父さん貧乏父さん」(筑摩書房)を読んだ妻が先に自己啓発に関心を持った。夫婦にとって人生を見直す糸口になった

## 成功哲学に1900万円投資 そのエッセンスを伝えていた

2人が参加した加速成功実践塾を主宰するのは道幸武久(36)。実践塾は年3回、各個人を集める人気セミナーだ。「僕も自己投資に1900万円を投じた」と道幸は話す。なかでも「書籍『思考は現実化する』(きよ書房)で有名な米国の元祖・成功哲学提唱者、ナボレオン・ヒルのCD教材には1200万円以上を費やした。「人間の潜在意識を活用して成功を止めよう」というのがナボレオン・ヒルのプログラム。自分の潜在意識にたたき込むため、一時はクルマの中で毎日聴いていた」と道幸は言う。そして自身のセミナーでは、「1900万円かけて得た成功哲学のエッセンスを伝えている」という。

道幸の師匠は、米国出身のジェームス・スキナーだ。末日聖徒イエス・キリスト教会(モルモン教宣教師)のスキナーは、ステイブン・R・コヴィーによる成功哲学書「7つの習慣」を96年に日本で翻訳出版し、大ベストセラーになった。自らも「成功の9ステップ」(幻冬舎)を刊行。スキナー・セミナーの受講者だった道幸は、スキナーに「日本での営業を手伝いたい」と申し出て、スキナーのセミナーで人生が変わつ

が集まつていて、知り合いになれる。僕も早くブレイクしたいと思つていて、そういう人たちとつながりたい」「僕も自己投資はなかつた」と齊藤野崎(野崎)。齊藤と同様の「褒め合い体験」についてもある程度肯定する。「意欲はあるとしても、モチベーションが途絶えるときもある。セミナーはカナルブルみたいを感じます」。



⑤(上)道幸は証券会社の営業マンをはじめ、セミナーや研修の企画会社勤務などを経て02年に独立。講演会は1泊2日のセミナーとは別で、入場料は8000円。この日は対談者が女性だったため、女性来場者が多かった

齊藤正明(32)がセミナー通いなどの自己投資に費やした金額は数万円以上だという。

きっかけは上司によるイジメだった。

毎朝、猛烈な早口で、その日の仕事を命じられる。聞き逃せば、「使えねえ死ね」と罵倒された。早口を聞き取れない自分がダメなのだと、悩んだ齊藤が手を伸ばしたのが「速讀講座」だった。

機器やCDなどの教材の購入で約10万円。しかし、上司との関係は変わらず、暴言に悩まされ続けた結果、「断り方セミナー」を受講。次に、自分の働きかけによって上司を変えられればと、「コチラ講座」に通つた。それが約60万円。さらに「メンタル面強化」のための自己啓発セミナーに通い始めた。

実は、このセミナーは友人を会員に誘わせるねずみ講まいの組織だったのだが、齊藤は勧誘の電話をかけ続けた。

マグロ鮮度保持剤の開発者だった齊藤は、ついには上司から「マグロ船に乗つてこい」という命令を受けた。43日間の船旅を終えて戻つた齊藤は、その後うつ病になり休職。ようやく上司は更迭された。

数々のセミナー受講。「上司との関係を良くする効果はなかつた」と齊藤は言つて、「でも、自分が後に救われた

齊藤止明(32)がセミナー通いなどの自己投資に費やした金額は数万円以上だといふ。

齊藤は05年、「加速成功実践塾」といって、1泊2日で約20万円のセミナーに参加した。「10人が6人ほどのグループになり、一人ずつ自分の夢や目標を語るんです。『1億円稼ぎたい』とか『起業したい』とか。すると全員が『○○さん、できますよ』『すごい』初めて聞くビジネスプランだ」と褒める。何の根拠もなく、でも人に認められると、そうかなと思えてくるんです」(齊藤)。

齊藤は、セミナーで「マグロ船に乗つた」という体験は、あなたの強みだと言われる。いつか本に書きたいと思うようになつた。それが09年2月刊行の、ヨンズ)。すでに4刷りに至つた。齊藤は、会議についてのコンサルタントとして07年に独立。今は自らセミナーを開催した。この半年で、自己投資に使つた費用は約100万円だという。「セミナーでは本を書いて有名になつた人など成功者の齊藤と同じ、加速成功実践塾の参加者たと話す人に、道幸の講演会で会つた。

08年9月、システム会社勤務の佐藤直美(仮名、39)は、夫と2人で約10万円を払つてスキナーの7泊8日のセミナーに参加。プログラムでは、大音響での音楽がかかるなか全力で踊つたり、木の板を素手で割るといった体験をした。

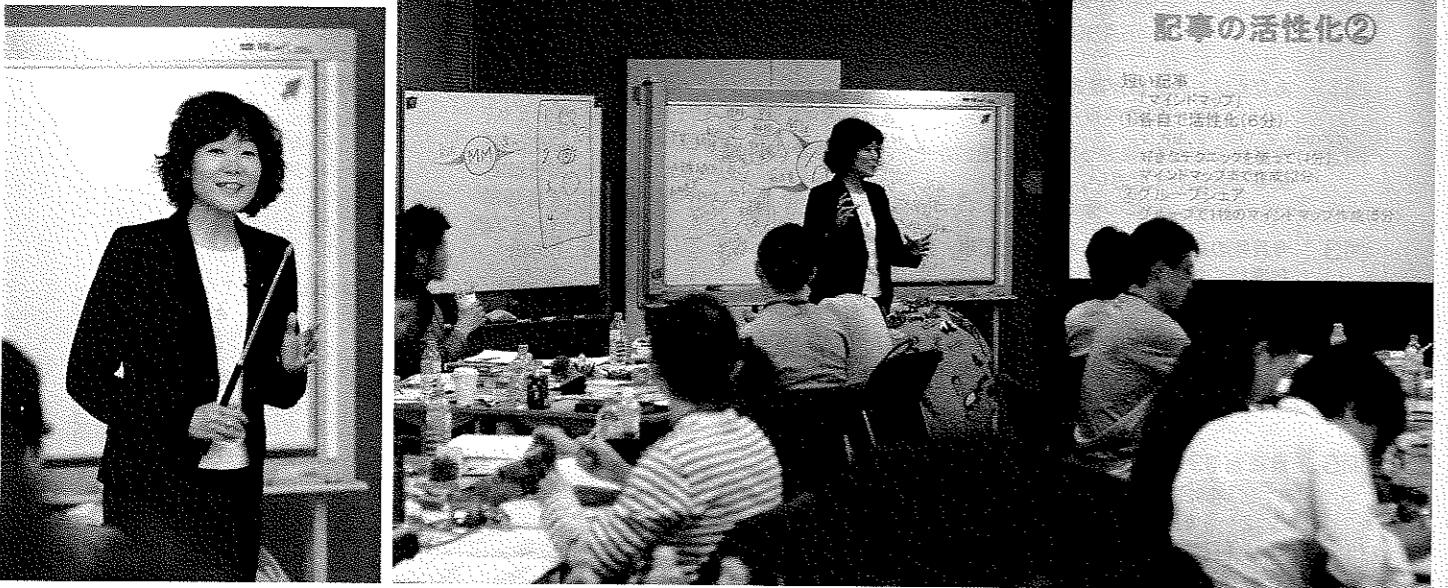
「自分の體を脱ぐためです。でもそれが良かつた」と佐藤は言う。「やりたいことが漠然とはあつたのに、自信のなさや、人に話しても笑われると思う気持ちのせいで誰にも言えなかつた。セミナーでそれが取り扱われました」。

電機メーカーの研究者だった夫の学美(仮名、43)は、成功哲学にはまるで関心がなかつた。しかし会社では、業績悪化で本来の研究の仕事が減り、苦立患を覚えていた。セミナー参加の3ヵ月後、夫は会社を辞めた。今は勉強仲間と投資会社をつくり、「いずれは研究者を育てる財團をつくりたい」と話す。投資はまた軌道に乗らないため、家事と育児を担当している。夫の決断を、妻は「心から応援したい」と言う。

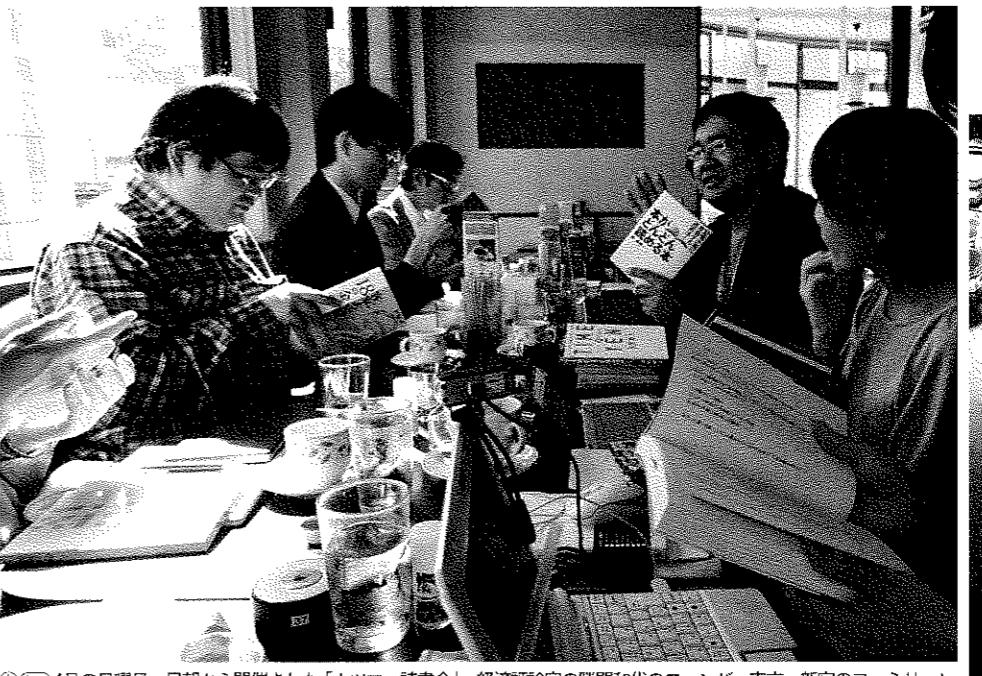
人生の決断は、その人のものである。

しかし、セミナーの料金設定は概して高すぎはしないか。道幸に聞くと、「世界の権威あるセミナーは2、3日で15万円から20万円。うちでは、社員による個別相談も付けてるので、ほかと比べて高くはない」と言う。道幸によれば、米国では自己啓発・能力開発の市場は6000億円から1兆円規模。「日本でも、当社は年率20%成長だし、それくらい伸びているところは多い」。

④「フォトリーディング」の講座。01年、コンサルタント神田昌典が米国から導入。顧客の企業経営者から受講者を広げた。この日の講師は元翻訳者の沢田淳子。「3回間は自分で続けてほしい。きっと変化があるはず」と話す



上巻 07年に勝間が著書で講座を紹介して以来、会社員の受講者が増えた。5月2日、3日の回は30人が参加。「旅行したと思って受講を決めた」と話す30代の女性もいた



⑤左下4月の日曜日、早朝から開催された「カツマーリー読書会」。経済評論家の勝間和代のファンが、東京・新宿のファミリーレストランに集まつた。参加者は20代から40代の会社員と自営業者の計9人(1人は途中参加)。普段は平日に開催することが多い



⑥1人2冊ずつ持ち寄ったお薦め本。この日の進行役は芸能事務所に勤務する斎藤亜由子。フォーリーブースの担当で、今年1月の青山李史の死を機に、「人生には限りがある。急いで勉強したい」と強く思った



上巻 カツマーリー読書会の参加者が、この日のフォト

た。日曜日の朝7時半、ファミリーレストランに集まつたのは会社員と自営業者の計9人。1人が2冊の本を薦める決まりになつていて。

進行役の斎藤亜由子(37)は、芸能事務所に勤める会社員。3年前、「尊敬する歌手の方に強くしかられたのを機に、自己投資の必要性を感じた」と言う。女性向けの経済セミナーに参加したり、成功哲学本や勉強本を読み始めた。「自身の今だから勉強に時間を作る」と思い、09年に入つて早朝読書会や勉強会にも積極的に参加するようになつた。

読書会で話題に上つていたのが、勝間が紹介して知名度が高まつた読書法「フォトリーディング」である。2回間で10万5000円の講座が、全国で毎月30~50回開催されている。カツマーリーの参加者にも、受講者と受講予定者が一人ずついた。社会保険労務士の野嶋もセミナー評論家の要原も受講者だ。実は筆者が自己投資アームの高まりに関心を持つたのも、この講座の開催頻度に加え、その多くが満員になつてると知つたからだつた。

こちらも取材として参加した。30人の参加者は20代、30代の会社員が中心。「メールの処理速度を上げたい」「神田さんの本で知り、自分のスキルにいたいと思った」などと話していた。

フォトリーディングとは、「本の情報を持ったパソコンとウェブカメラを使つて、自分の内容を予習し、読む目的を定める。まずは簡単に本に目の焦点を合わせ、ばけ、本まで本1冊のページをめくり切る。さらに時間をおいて復習(活性化と呼ぶ)をする」。筆者はそもそも速読の習慣があるせいか、その場で劇的な

变化は感じなかつたが、参加者からは「明らかに速く読めるようになった」という声も上がつていて。

むしろ驚きだったのは、2回間同じ課題を同じメンバーでこなしたことの高揚感。そして仲間意識のよくなものが生じたことだ。「ここに来て、意識の高い人に出会えたのが良かった」と感想を漏らす人が多かつたことにも納得がいった。同じ目的を持つ者同士との出会い。それはカツマーリー勉強会や、そのほかのセミナー参加者も、共通して口にすることだつた。

4月26日、東京・新宿で「カツマーリー

と称する勝間ファンの読書会に参加し

た。日曜日の朝7時半、ファミリーレストランに集まつたのは会社員と自営業者の計9人。1人が2冊の本を薦める決まりになつていて。

進行役の斎藤亜由子(37)は、芸能事務所に勤める会社員。3年前、「尊敬する歌手の方に強くしかられたのを機に、自己投資の必要性を感じた」と言う。女性向けの経済セミナーに参加したり、成功哲学本や勉強本を読み始めた。「自身の今だから勉強に時間を作る」と思い、09年に入つて早朝読書会や勉強会にも積極的に参加するようになつた。

読書会で話題に上つていたのが、勝間が紹介して知名度が高まつた読書法「フォトリーディング」である。2回間で10万5000円の講座が、全国で毎月30~50回開催されている。カツマーリーの参加者にも、受講者と受講予定者が一人ずついた。社会保険労務士の野嶋もセミナー評論家の要原も受講者だ。実は筆者が自己投資アームの高まりに関心を持つたのも、この講座の開催頻度に加え、その多くが満員になつてると知つたからだつた。

こちらも取材として参加した。30人の参加者は20代、30代の会社員が中心。「メールの処理速度を上げたい」「神田さんの本で知り、自分のスキルにいたいと思った」などと話していた。

フォトリーディングとは、「本の情報を持ったパソコンとウェブカメラを使つて、自分の内容を予習し、読む目的を定める。まずは簡単に本に目の焦点を合わせ、ばけ、本まで本1冊のページをめくり切る。さらに時間をおいて復習(活性化と呼ぶ)をする」。筆者はそもそも速読の習慣があるせいか、その場で劇的な

### 不況で頼りになるのは 自己投資は心のよりどり

企業は頼みにならない。個で生きる資格が必要だと悟つた人々は、頼りは自分の能力、そして人脈だけだと感じている。しかし、自分磨きのためにも「よすが」は欲しい。そこに現れたのが、成功哲学の実践者である。「会社に人生を預けるな」と説く勝間は、ロールモデルとして信奉され、道徳は実業家志願者から希望の星のようがあがめられる。

流動性の高い社会に生きる私たちは、自分の哲学の源泉を何に求めるか、それを抱いてどこへ歩いていくか、自分で決めなければならない。増え続ける成功哲学との付き合い方も、それをしていて語るべきことではない。言えるとすれば、これほど成功哲学が求められるのは、グローバル化した社会は厳しく、もはや気楽には生きられない。成功哲学を通じて人が集うのも、現代を生きる人間の自助の新しい形なのだろう。(敬称略)

左ノートパソコンとウェブカメラを使つて、読書会の様子を生中継。ネット経由で、自分で参加した人もいた

自己投資に熱心に励む人の姿は、程度の差はある、真摯な宗教徒のように見えなくもない。セミナーに関しても、実際に何人から「宗教です」との言葉を聞いた。冒頭の齊藤は、自己投資の落とし穴も指摘する。「セミナーは店心地がない。でも、勉強すればするほど自分の次の課題が見えてきて、さらに別のセミナーに行かなければと思う。こうして『セミナード地獄』に陥つた人を何人も見てしか思えない人もいる」と言う。自己投資による高揚感から、それ自身が変化する可能性はあるだろう。

野崎もセミナー参加者のなかには、ただ店心地がいいから来ていると行かなければと思う。こうして『セミナード地獄』に陥つた人を何人も見てしか思えない人もいる」と言う。自己投資による高揚感から、それ自身が変化する可能性はあるだろう。

冒頭の齊藤は、自己投資の落とし穴も指摘する。「セミナーは店心地がない。でも、勉強すればするほど自分の次の課題が見えてきて、さらに別のセミナーに行かなければと思う。こうして『セミナード地獄』に陥つた人を何人も見てしか思えない人もいる」と言う。自己投資による高揚感から、それ自身が変化する可能性はあるだろう。